2014.7.19

生誕150年 ドイツ・ロマン派最後の巨人 リヒャルト・シュトラウス 第3回

プログラム

今年、生誕150年を迎えたドイツ・ロマン派最後の巨匠、リヒャルト・シュトラウス特集の、今日は第3回目をお送りします。

組曲「町人貴族」はモリエールの戯曲「町人貴族」への付随音楽を組曲にまとめた作品ですが、元々挿入オペラとして「ナクソス島のアリアドネ」が書かれており、こちらは別のプロローグを付けて独立したオペラになりました。オペラ抜きでまとめ直したのが「町人貴族」です。古典的なたたずまいを持ちながら、近代的な感覚を織りまぜたシュトラウスならではの秀曲です。楽劇「ばらの騎士」はホフマンスタールの台本によるリヒャルト・シュトラウスの最も人気の高いオペラで、18世紀のウィーン貴族の生活で繰り広げられる愛の物語をオペラ・ブッファ（喜劇）で描いています。ウィーン情緒たっぷりのワルツや明るさと優雅さを持った軽妙で美しい旋律など、近代にモーツァルトが蘇ったような傑作です。このオペラからの名旋律をオーケストラ用に編曲し、壮麗なコーダを書き加えたのが組曲で、コンサートでもよく演奏される作品です。合わせてお聴きください。「ブルレスケ」とはドイツ語で、滑稽な、おどけた、といった意味ですが、ピアノと管弦楽のための「ブルレスケ」はその名の通り、ティンパニの活躍や自由に走り回るピアノは、軽妙でユーモアに溢れています。22歳の頃に書かれた佳曲です。アルプス交響曲は、夜明けから日没までのアルプスの一日を大オーケストラを駆使して描写した、音のパノラマともいうべき名曲で、大自然の様子がリアリティ溢れる音の洪水として迫って来る様は圧巻です。

今日はオペラの代表作、オーケストラ作品の代表作、ピアノ作品の代表作を中心に、リヒャルト・シュトラウスの世界をたっぷりお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊

リヒャルト・シュトラウス（1864～1949）：
組曲“町人貴族”op.60～抜粋

ハンス・シュミット・イッセルシュテット指揮ベルリン放送交響楽団
（1972.11.8　リアス放送局スタジオでのLive）

楽劇“ばらの騎士”op.59

第1幕冒頭／第2幕（終幕の場）／第3幕（三重唱後半～二重唱とフィナーレ）
クリスタ・ルートヴィヒ（ソプラノ）……マリー・テレーズ元帥夫人
テオ・アダム（バス）……オックス男爵／エディット・マティス（ソプラノ）……ゾフィー
タティアナ・トロヤノス（メゾ・ソプラノ）……オクタヴィアン伯爵
カール・ベーム指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（1969.7.26　ザルツブルク祝祭大劇場でのLive）

楽劇“ばらの騎士”組曲op.59～後半

クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（2001.10.8　ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

リヒャルト・シュトラウス（1864～1949）：
ピアノと管弦楽のための“ブルレスケ”ニ短調

マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）
クラウディオ・アバード指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1992.12.31　ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

アルプス交響曲op.64～抜粋

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1996.5.30　ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）